



奈良町にぎわい通信

Vol.46

二〇一九・立春〜雨水

発行
奈良町
にぎわいの家





黒豆、えび、柚子...自然の風味がいっぱい。



岡井睦先生による「かき餅作り」。

冬の歌を作って発表「いっせいに飛び出してくる鹿たちは朝もやをつくホルンの音に」



歌人・喜多隆子先生による「やさしい短歌」

かまどの湯気たちのぼる...。大根菜も裏庭で収穫して。



奈良町にぎわいの家 1月のイベントから



花の色を
あじわうような...



体験茶会



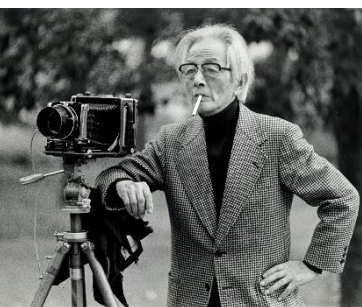
年始めはお餅付き!



1月は学生の方、海外のお客様などお茶体験の機会も多く。

奈良町 施設巡りトーク～Vol.7 「入江泰吉記念奈良市写真美術館」

お話
学芸員
説田晃大さん



●施設紹介

約半世紀にわたり、奈良大和路の風物を撮り続けた写真家、入江泰吉氏が全作品を奈良市に寄贈したのを機に、平成4年に開設しました。入江作品をはじめ、多様な写真が鑑賞できる展覧会を企画、実施しています。施設のある高畑地区は、古くから春日大社の社家町でもあり、近代では多くの文人らが居を構えた場所。新薬師寺も近くにあり、歴史的環境と調和する美術館です。展示室の他に写真集など自由に閲覧できる公開スペースやミュージアムショップやカフェもあります。散策がてら気軽にお越しください。

●入江泰吉記念写真賞について

写真文化の発信と新たな写真家の発掘を目指し、2年に一度行われる、入江泰吉記念写真賞は、昨年3回目を迎えました。この賞は、受賞者が「写真集」を製作できることが特徴で、100枚組の写真で応募する本格的なものです。第3回の受賞作家は、真鍋奈央氏で、受賞記念展として、2/22(金)～4/7(日)まで「波を綴る」を開催します。島(ハワイ)ならではのひとと風景への独自のまなざしが、審査員からも高く評価された作品を是非、ご覧ください。展覧会初日には、受賞作家と飯沢耕太郎氏(写真評論家)、当館館長、百々俊二のトークイベントもあります。展示初日は午後1時からです。

●写真からみえるもの

「インスタ映え」という言葉をよく聞くように、今や写真を、撮ること、見ることは、暮らしの中に当たり前にあります。写真は時代を映す鏡。いろんなものを見つめる機会の一つとして、写真という表現により触れてもらえれば嬉しいです。入江泰吉の奈良への愛情と風物への視点は、当時の、そして今も変わらぬ「奈良」を私たちにリアルに伝えてくれます。一方、新たな写真作品も次々と生まれています。入江作品を堪能できる美術館として、またこれからの写真を考える場所として、皆さんの身近な美術館になっていけたらと思います。

- 開館時間...9:30-17:00
(入館は16:30まで)
- 休館...月曜日
- 入館料 一般...500円
高校・大学生...200円
小・中学生...100円
- 連絡先...〒630-8301
奈良市高畑町600-1
TEL 0742-22-9811

聞き手・文責 おの・こまち

小学生の「昔の暮らし体験」

地元の椿井小学校、飛鳥小学校の皆さんが来館、見学や体験をしました。後日、保護者の前で発表の学校も。以下は、椿井小学校三年生の皆さんが届けて下さった御礼状より。また来てくださいね！

- ・蓄音機で「赤とんぼ」を聞くとかわいい声で歌っていてびっくりしました。火吹き体験で火をふくと一瞬目が痛くなり疲れました。
- ・昔の人は電気がなくてもいろいろなものを作っていたのがすごいと思います。
- ・にぎわいの家の中は昔のものがそのまま残されていて、人が住んでいた様子が思いうかぶものがたくさんありました。
- ・ぼくはいろんなガラスを見てきたけど波のようにふるえてとてもきれいに見えるガラスをはじめて知りました。
- ・2階は天井が低く、びっくりしました。かまどは少しこわかったけど、火吹きでふいていると楽しかったです。
- ・かまどの火のつけ方がこんな苦労すると思わなかったです。
- ・昔のレコードは字の書き方が反対から読むと初めて知りました。



まずは当館のお話を。



蓄音機体験中。竹針の音は？



煙出しを見えています。



山際のそら夕茜
雨もあがりて
いっしかに

山ぎわの空は茜色に染まっています。いっしか雲は雨になり、そのうち雨もあがりました。少しづつ春へと向かう「雨水」の気配...

オリジナル節氣短歌
喜多隆子(歌人)
節氣マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2019 雨水

奈良町と鬼

事務局長 藤野正文

立春になったと思ったら早くも雨水に日差しも春の気配、日暮れも遅くなってきたような気がしますね。

2月の忘れてはならない行事は豆まき。元興寺では「福はうち、鬼はうち」と豆まきが行われましたね。節分(季節の変わり目)には邪気(鬼)が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊ばらい行事が行われるようです。節分は各季節の始まりの日である「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日、季節を分ける」という意味だとか。しかし、冬から春に変わる日(立春)が一年で一番大切だから、節分といえは立春の前日となったとか。

節分には、一般的に「鬼はそと、福はうち」と声を出しながら福豆(煎り大豆)を撒いて、年齢の数だけ(もしくは1つ多く)豆を食べる厄除けを。豆は、「穀物には生命力と魔除けの呪力が備わっている」との話。また、邪気除けの柊鰯(ヒイラギ)とイワシを玄関先に飾りますね。

鬼といえは、町家の屋根の上にも鬼がいます。鬼瓦は屋根の棟(むね)のはしに置く大きな瓦のことで、中国や朝鮮、日本で古くから魔除(まよ)けとして鬼面がつけられてきたものです。わが国の7世紀の鬼瓦は、鬼面がつかずに蓮華文(れ

紀の鬼瓦は、鬼面がつかずに蓮華文(れんげもん)が飾られてきたのですが、その後、鬼面のつくものが主流を占めたそうです。厄を払ってくれるように恐ろしい形相で睨み付けていますが、家を守ってくれるいい鬼?なんですね。鬼瓦も今はいろいろな意匠のものがあり、蓮の華をあらわしたものの、また、家紋や福の神、桃などの植物がついたものなどもあります。鬼を特注した住まい手の気持ちを推し量りながら、様々な鬼瓦を見つけたのも面白いものです。最近では、模様のないものが多くなっているようですが、そんな楽しみも奈良町ならではの。

折り紙、お手玉:
ありがとうございます。

色とりどりの千代紙での折り紙作品、来館者の皆さんにプレゼント。いつも届けてくださる地元の方に感謝!



にぎわいの家・テレビ関連

●「百年名家」二月二十日放送。

全国各地の名家を訪ねる旅番組。旅人は、奈良市出身の俳優、八嶋智人さんと女優の牧瀬里穂さん。奈良町の重要文化財、今西家書院を探访する番組の冒頭、当館を紹介。かまど体験などの活動写真も交えて、施設が美しいカメラワークで紹介されました。番組の解説は当館共同体の、三井田康記、畿央大学教授。建物に特化した番組だけあって、奈良町(今西家書院の様子)が丁寧に放映されました。写真は取材時の八嶋さんとスタッフさん。当館の看板をしっかりアピール!くださり、さすが、奈良市観光特別大使!!



八嶋智人さんPRありがとうございます!

●「タカラヅカスカイステージ」

宝塚歌劇団で過去に公演された演目を語りのスタイルで紹介する番組。星組の輝映玲央さんらが、座敷でナレーションを撮影。直前まで、興福寺中金堂でロケをされていたの移動。大変寒い日でしたが、凛としたお姿はまさにタカラジェンヌ!



●「三重テレビ」ええじゃないか

奈良町特集ということでロケがありました。奈良テレビで3/14(木)朝8時半から放送予定。当館スタッフの案内シーンもあるはず?!お楽しみに。

奈良町にぎわい通信vol.46

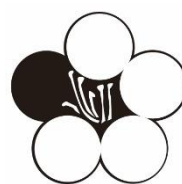
制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



立春

2/4~18



雨水

2/19~3/5

書:逢香



紅梅の一枝を剪りてかへるべし
山かげの雪踏みしめながら

前登志夫